令和5年度 自己点検評価・学校関係者評価 報告書

目次

1. はじめに	1
2. 令和4年度宮崎学園事業報告書(抄)	2
みどり幼稚園・清武みどり幼稚園事業報告書	6
3. データ編	11
4. 令和4年度事業計画に係る履行状況(PDCA)	12
5. 令和4年度こども園合同研修会計画 及び保育環境改善プログラム勉強会日程	13
6. 教育・保育等に関する保護者アンケート の結果と考察	14
7. 令和6年度へ向けての課題と対策	28
8. 学校関係者評価委員による指摘事項	30
9. おわりに	33

幼保連携型認定こども園

宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園

1. はじめに

令和5年度は、こども基本法の施行、こども家庭庁の創設など、こどもの人権がより大切にされる新たな時代を迎えました。

昭和42年に幼稚園として出発した本園は、平成29年度をもって幼稚園を廃止し、6年前より幼保連携型認定こども園となり、教育・保育を一体として行う新たな機能を有した教育・保育施設へと生まれ変わりました。

そのような中、平成29年には、新たな幼保連携型認定こども園教育・保育要領が出され、その中には、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のほか、環境を通して子どもが主体となる教育・保育を行うことが明記されています。時代や社会の変化の中、さまざまな実体験を重んじ、遊びを通した学びの基盤づくりが大切になってきています。

本園においても従来の教師主導型の幼児教育から、一人ひとりの子どもを尊重する子ども主体の幼児教育・保育をいかに構築するかが大きな課題となりました。

そこで令和4年度より、本園では、子ども主体の幼児教育・保育の構築をめざし、保育環境、保育内容の見直し等を行い、宮崎国際大学教育学部と宮崎学園短期大学保育科との共同研究によって、教育・保育の質向上に向けた取り組みを行っているところです。清武みどり幼稚園では令和5年度から3歳以上児の異年齢保育にも取り組んでいるところです。緒に就いたばかりでいずれも十分なものではありませんが、子ども第一で、子どもが毎日わくわくドキドキして登園するこども園を築いていきたいと願っています。

今回、自己点検評価報告書という形で現状評価、今後の課題についてまとめております。保護者の皆様にはアンケートにご協力いただき有り難うございました。また学校関係者評価委員の皆様にも御意見を頂戴し、独りよがりにならない評価を目指すことができました。ありがとうございました。今後更に皆様からさまざまな御意見をいただき、更なる教育・保育の質向上をめざして参ります。どうぞこれからも本園の教育・保育へのご支援、ご協力よろしくお願い致します。

令和6年3月20日

幼保連携型認定こども園
宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園
園長 宗和 太郎

2. 令和4(2022)度 宮崎学園事業報告書 (抄)
 (令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)
 学校法人 宮 崎 学 園

(目 次)

1. 設置する学校・学部・学科等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
 4. 教員（学校長名等）・職員の人数（令和4年5月1日現在）・・・・・・・・5
 5. 建学の理念・教育目標等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
 6. 法人の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
 8. 主な事業の目的・計画及び進捗状況

幼保連携型認定こども園
 宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園
 宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・・・54

10. データ編

4. 教員（学校長名等）・職員の人数

(1) 教 員

幼保連携型認定こども園宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園 第3代園長：有嶋誠（令和4.41就任）

区分	専 任					兼任	合計
	園長	副園長	主任教諭	教諭	計		
	※	※	2	15	17	13	30

※園長，副園長は短大教員が兼務

(2) 職 員 ※高等学校事務室は中学校を兼ねる。

	常勤職員	非常勤職員	合 計
法 人 本 部	5	0	5
宮 崎 国 際 大 学	20	5	25
宮 崎 学 園 短 期 大 学	12	8	20
宮 崎 学 園 図 書 館	4	4	8
宮 崎 学 園 高 等 学 校	9	5	14
宮 崎 学 園 中 学 校	0	0	0
み ど り 幼 稚 園	3	3	6
清 武 み ど り 幼 稚 園	3	3	6
合 計	56	28	84

5. 建学の理念・教育目標等

宮崎学園は、建学の精神「礼節・勤労」のもと、高等学校や短期大学において長年にわたり地域に密着した職業人の育成に力を注いできており、平成6(1994)年度には、国際化時代に求められる人材育成のため四年制大学を開学した。また、平成15(2003)年度には高等学校を、平成20(2008)年度には短期大学を男女共学化している。平成21(2009)年度には、高等学校との中高一貫教育を行う中学校を開設し、平成28(2016)年度・平成29(2017)年度には短期大学附属幼稚園2園を幼保連携型認定こども園に移行した。令和元(2019)年度は、学園創立80周年を迎えた。

建学の精神「礼節・勤労」は、人が社会の中で生きていくために必要な基本的理念であるため、時代の変化によってその重要性が失われることはない。宮崎学園の教職員や生徒等が建学の精神に基づく教育活動を日々実践することによって、「宮崎学園ブランド」の確立に取り組む。

○幼保連携型認定こども園宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園

○幼保連携型認定こども園宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園

園の運営にあたっては、乳幼児期における教育及び保育の重要性を深く認識し、園児の安心及び安全の確保を第一とし、保護者や地域及び宮崎学園短期大学等との連携を図りながら、次のような願いをもって子どもたちの心身の発達を支える。

- (1) 五感を通して豊かな遊びや活動を体験する。
- (2) お友だちと夢中で遊び、新しい発見を楽しむ。
- (3) 自分や周りの人を大切にする。

6. 法人の沿革

昭和14年(1939)	宮崎女子商業学院，宮崎高等裁縫女学校設立(創立者:大坪資秀) 両校合併，宮崎女子実践商業学校と改称
昭和20年(1945)	中学校令により宮崎実践女子商業学校と改称
昭和23年(1948)	新学制に基づき，宮崎女子中学校設置，同校に専門部を併設
昭和24年(1949)	宮崎女子中学校専門部を宮崎高等実業学校と改称
昭和26年(1951)	宮崎高等実業学校を宮崎女子高等商業学校と改称
昭和27年(1952)	新制高等学校令により宮崎女子商業高等学校設置（宮崎女子高等商業学校廃止）
昭和30年(1955)	宮崎女子商業高等学校を宮崎女子高等学校と改称
昭和35年(1960)	宮崎みどり幼稚園設置
昭和40年(1965)	宮崎女子短期大学設置（保育科） 宮崎みどり幼稚園を宮崎女子短期大学附属みどり幼稚園と改称
昭和41年(1966)	宮崎女子短期大学に国文科設置
昭和42年(1967)	宮崎女子短期大学に初等教育科設置 宮崎女子短期大学附属清武みどり幼稚園設置 宮崎女子中学校廃止
昭和43年(1968)	宮崎女子高等学校に音楽科設置
昭和45年(1970)	宮崎女子短期大学に音楽科設置
昭和48年(1973)	宮崎女子高等学校に情報処理科設置

昭和 56 年(1981)	宮崎女子専門学校開校
昭和 59 年(1984)	宮崎女子専門学校を宮崎学園技術専門学校と改称
昭和 61 年(1986)	宮崎女子短期大学に英語科設置
平成 2 年(1990)	宮崎女子高等学校商業科を国際情報科に改称 宮崎学園技術専門学校を男女共学とし、オービック専門学校に改称
平成 5 年(1993)	宮崎女子高等学校に文英科設置
平成 6 年(1994)	宮崎国際大学開学 宮崎学園図書館・国際交流センター竣工
平成 10 年(1998)	宮崎女子短期大学に専攻科（福祉専攻）設置
平成 14 年(2002)	宮崎女子短期大学に専攻科（音楽療法専攻）設置 宮崎女子高等学校文英科を特進科に改称
平成 15 年(2003)	宮崎女子高等学校を男女共学とし、宮崎学園高等学校に改称 宮崎学園短期大学国文科及び英語科を人間文化学科に改組転換
平成 18 年(2006)	宮崎国際大学比較文化学部を国際教養学部に変更
平成 19 年(2007)	宮崎学園高等学校情報処理科を経営情報科に変更
平成 20 年(2008)	宮崎女子短期大学を男女共学とし、宮崎学園短期大学に変更
平成 21 年(2009)	オービック専門学校廃止 宮崎学園中学校開校
平成 26 年(2014)	宮崎国際大学に教育学部児童教育学科設置 宮崎学園短期大学に現代ビジネス科設置
平成 27 年(2015)	宮崎学園短期大学の初等教育科・音楽科・人間文化学科廃止
平成 28 年(2016)	宮崎学園短期大学専攻科（音楽療法専攻）廃止 宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園廃止 幼保連携型認定こども園宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園設置 宮崎学園高等学校音楽科廃止
平成 29 年(2017)	宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園廃止 幼保連携型認定こども園宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園設置

7. 事業の概要

(1) 学園の情報開示については、各学校のホームページに掲載しており、下記の令和 3(2021)年度財務書類等も公開している。また、各学校事務室に備えられた財務書類等も閲覧することができる。

○令和 3(2021)年度決算の概要

資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表

○令和 3(2021)年度事業報告書の概要

設置する学校・学部・学科等

学部・学科等の入学定員・学生数の状況

役員・評議員・教員・職員の数（令和 3 年 5 月 1 日現在）

事業の概要

(2) 幼保連携型認定こども園（みどり幼稚園・清武みどり幼稚園）では、21世紀型保育・幼児教育の質向上のため、「保育環境改善プログラム（3年間）」を導入し、保育環境（保育室・知育玩具・絵本等）を整えるとともに、非常勤を含む保育教諭の研修（年4回）を行った。

また、清武みどり幼稚園では、令和5（2023）年度からの異年齢保育に向けて所要の整備を行った。

8. 主な事業の目的・計画及び進捗状況

数値目標	達成状況
①生徒・学生による教育満足度調査結果 満足度 90%	未達成 (86%)
②当年度収支差額プラス 8,000 万円	未達成 (△1,326 万円)
③学園全体の収容定員充足率 88%以上	未達成 (86.2%)
④大学国際教養学部 of 入学定員充足率 95%以上	未達成 (88%)
⑤短大保育科 of 入学定員充足率 100%以上	未達成 (73.3%)
⑥短大現代ビジネス科 of 入学定員充足率 86%以上	未達成 (76%)
⑦短大専攻科 (福祉専攻) of 入学定員充足率 50%以上	未達成 (22%)
⑧高校普通科 of 入学定員充足率 82.2%以上	達成 (90%)
⑨高校経営情報科 of 入学定員充足率 71.4%以上	達成 (75.7%)
⑩清武みどり幼稚園 of 利用定員充足率 89.4%以上	未達成 (77.9%)

※定員充足率は「経営改善計画 2020-2022」

幼保連携型認定こども園

宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園・清武みどり幼稚園 事業報告書

1 はじめに

令和 4 (2022) 年度は、建学の精神「礼節・勤労」を幼児向けの文言に改め、子どもを中心にすえた 21 世紀型の教育・保育に着手した新しい年となった。「こどもから始まる みどりから始まる ～生きる根っこを育む保育～」を教育・保育目標とし、五感を通して豊かな遊びや活動を体験し、お友達と夢中で遊び、新しい発見を楽しみ、自分や周りの人を大切にできる子どもたちの育成に取り組んだ。

また、日本知育玩具協会の保育環境改善プログラムに取組み、玩具と絵本を整備し、職員研修に取り組んだ。同時にプロジェクト研究に着手し、両園の合同研修会で、年齢別の実践発表を行った。これらを通して、保育・教育の質向上に取り組んだ。

また、両園では、9 月より 3 歳未満児クラスにおいて育児担当制を導入し、愛情豊かでより丁寧な保育に取り組んだ。清武みどり幼稚園では、3 歳以上児クラスにおいて令和 5 (2023) 年度より実施予定の異年齢保育についての事前研修を重ね、準備を整えることができた。

両園においては、大改革の一年であったが、大きな混乱なく無事に一年を終えることができた。

2 事業計画及び取組内容

事業計画	取組内容	達成状況・課題
(1) 21 世紀型保育の実現	① これまでの保育を振り返り、今、そしてこれから求められている保育のあり方を究明する。 ② 国や全国の幼児教育・保育の動向について、短大・大学と連携し、情報収集に努める。 ③ 必要に応じて先進地視察を行う。	令和 4 年 4 月より、短大・大学と連携して 21 世紀型保育に全職員とともに取り組んだ。4 月には、玩具、絵本等を整備し保育環境を整え新しい年度を迎え、充実した保育環境で一年を終えることができた。 宮崎県幼稚園連合会に加え、新たに認定こども園協会に加盟し、こども園としての在り方を

	<p>④ 目指す 21 世紀型保育の姿を明確にし、保育目標を見直す。</p> <p>⑤ 21 世紀型保育の具現化のために「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」をはじめ年齢別年間指導計画や各種計画の見直しを計画的に行っていく。</p> <p>⑥ 目指す保育の実現のために必要な絵本や玩具等の環境整備を進めていく。</p>	<p>学ぶと同時に、みどり 20 人、清武みどり 5 人が認定こども園の各種講習会にも参加し、研鑽を深めた。</p> <p>9 月に三重県、愛知県への先進地視察を行い、最先端の保育の視察を行うことができた。</p> <p>年間 5 回の保育環境改善プログラムによる子ども主体の保育の研修会を実施し、職員の子ども理解がより進んだ。また、9 月より 3 歳未満児で「育児担当制」を採り入れたことにより、環境を整えることの重要性を改めて学んだ。</p> <p>短大・大学との連携では、テーマを設定して保育に取り組み、両園合同研修会では、年間 3 回の研修を実施し、子ども理解を深めることができた。</p> <p>保育・教育実習では連続性のある保育、ドキュメンテーション記録に新たに取り組み、学生にも子ども主体の保育についての理解が深まった。今後は、さらに子ども主体の保育を進めるため、研修会の受講や両附属園による合同研修会などに継続して取り組んでいく。</p> <p>初めての取り組みで正解のないことを生み出していくなど試行錯誤の 1 年間であった。変わることへの不安や自分を否定されていると感じる感覚が取り除かれるまでに時間を要した職員もいた。不安な気持ちを取り除き、目指したい方向へ進めるよう研修会を重ねたが、その理解はそれぞれであった。新しいものへと移行する際は、十分な学びと理解が必要であった。</p>
<p>(2) 一人でも、みんなとでも遊ぶことのできる教育・保育環境の充実</p>	<p>①園児一人一人の発達段階を考慮した教育・保育活動の推進</p> <p>②特色ある教育・保育活動の推進（英語であそぼう、音であそぼう、ボールで遊ぼう）</p> <p>③園庭の新たな遊具の選定及び遊具の配置の見直し</p> <p>④多様な園外保育の実施（芋掘り、みかん狩り、施設見学、園周辺散策等）</p> <p>⑤集団の一員としての気持ちを育む当番活動の推進</p> <p>⑥クラスや学年、縦割り等の多様な集団での活動の推進</p>	<p>知育玩具を導入し遊びを選べる環境が整ったことで、一人ひとりの子どもの発達に合った遊びが展開された。特別支援を必要とする園児に対しては、個別支援計画を策定した。</p> <p>また、多様な園外保育や子ども主体の行事、季節にあった園外保育を楽しんだ（梅ちぎり、交通公園、フローランテ宮崎等）。園庭でも職員が工夫を凝らした遊びが展開され、学年を超えて遊んだり、他児をまねて一緒に遊びを楽しんだりする姿があった。</p> <p>多様な園外保育を実施したが、特色ある教育の日程の調整や、コロナ感染症ウイルスの状況で行事が混み合い忙しい状況もあった。</p>

		<p><課題>園庭環境のさらなる充実が望まれる。</p>
<p>(3) 相手に気持ちが伝わる「あいさつ運動」の推進</p>	<p>①登園時・降園時の気持ちのよいあいさつの推進 ②毎学期の「あいさつ名人」表彰【清武みどり】</p>	<p>あいさつは自然にしあえることがよいため、あいさつ運動をしたり、表彰で促進するというについては行わなかった。</p> <p>職員からあいさつを心がけた。全園児が自らあいさつするには至らなかった。</p> <p><課題>あいさつについては、職員から子どもにも保護者にもあいさつを続け、気持ちよい関係を築けるよう今後さらなる取組が必要である。</p>
<p>(4) 豊かな心を育む教育・保育環境の充実</p>	<p>①安定した保育者と園児との関係を築き、園児一人一人が自分の居場所を実感できる保育環境の充実 ②自然事象や動植物に触れる機会や環境の整備 ③異年齢交流や地域との触れ合い活動等を通して「思いやり」や「ありがとう」の気持ちの醸成 ④「読み聞かせ」や文化活動の導入</p>	<p>保育環境改善プログラムを進め、子ども主体の保育を行う中で、保育者も子どもと一緒に五感を使って遊ぶ機会が増えた。また、年間の4つのテーマ（「自然のいろ」「ひなたとひかげ」「わたしの力 みんなの力」「みんなのいいところみつけた」）の視点から見えたことを発表したり、遊びの年表を作ったりする機会があった事で、保育を振り返り、保育の質向上につながった。</p> <p>毎日の絵本の読み聞かせを日課に組み込んだほか、保護者による絵本の読み聞かせも実施した（みどり：年間6回 / 清武みどり：年間8回）。</p>
<p>(5) 健康・保健・安全面に配慮した教育・保育環境の充実</p>	<p>①保育者も一緒に遊ぶ室内・室外遊びの充実 ②保育環境の整備と危機管理体制の充実 ③交通安全教室の実施 ④毎月の避難訓練及び安全点検の実施 ⑤感染予防対策の徹底と清潔の保持、及び保護者への情報提供と共有 ⑥園医による内科検診及び歯科検診の実施 ⑦学校薬剤師による定期検査適宜指導</p>	<p>年間を通して計画的に保育環境を整備し、避難訓練12回、不審者訓練1回、交通安全教室1回、エピペン研修1回、救急救命講習1回、内科検診2回、歯科検診1回、学校薬剤師による定期検査（みどり：5回 / 清武みどり：7回）を実施した。園内の安全点検、健康診断等の実施により、事故や疾病を未然に防ぐ策を講じた。これらを通して「命を預かる」という職員間の意識を新たにした。</p> <p>園バスには置き去り防止装置の設置（両園5年度当初に設置）、種々の安全点検等を整備した。</p> <p>定期的に事故報告とヒヤリハットの共有を行い、参加できない職員については記録で確認できるようにした。</p>

		<p><課題>地震から津波が発生した場合、園から大坪記念ホールへの移動が速やかにいかどうか課題である（みどり）。</p> <p>さまざまな時間帯での避難訓練を実施しているが、常勤だけでなく非常勤職員も含めて共通理解することを今後も徹底していく。</p>
(6) SDGs	<p>①食に関する指導の充実（SDGs 目標 2 関連）【みどり／清武みどり】</p> <p>②保護者と連携し、ペットボトルキャップを収集する。（SDGs 目標 12 関連）【みどり】</p> <p>③毎月一回、給食会議を行い、園児の食の実態を把握し、こども園としての食育の充実を図る。</p> <p>④保護者を対象にした給食試食会を実施し、献立に対する理解の場を設定する。</p>	<p>給食時に、子どもと食べながら献立や食材についての話を取り入れていた。給食会議（年間 12 回実施）の中では離乳食、アレルギー、献立など、食べることが楽しく、安全であるようにという観点から、話し合いを行った。</p> <p>ペットボトルキャップの収集は、学園高校との連携で行った。保育の中でも海の環境について考える連続した保育が行われたクラスがあり、子どもたちが SDGs について学ぶ機会になっていた（みどり）。</p> <p><課題>乳幼児ならではの SDGs はどうあれば良いのか、保育の中で取り入れていく事を検討したい。</p>
(7) 考える力のもとを育てる教育・保育環境の充実	<p>①動植物や季節等、自然の変化に気づける場の設定</p> <p>②園児一人一人の気づきを表現させる場の設定</p> <p>③園児一人一人が遊びを工夫する場の設定</p>	<p>自然との関わりを目指した保育に取り組むため園庭の樹木や草花を整えたり、樹木を整備することに取り組んだことで、色水遊びや泥・水遊びなど、学年を超えて遊びが広がるきっかけが多くあった。</p> <p><課題>園庭環境の充実が課題である。</p>
(8) 「人材育成制度 A&A チェック」活用による教職員の資質向上	①職員の職能向上や日々の保育の充実を図るための職員との個別面談や学期毎の自己評価シートによる振り返りの実施	<p>今年度は新しい保育を採り入れたことから、職員との対話を増やすことを心がけた。A&A チェックを実施する中でそのことについての職員間の理解が進んだ。</p> <p><課題>こどもの人権・人格の尊重への意識向上が課題である。</p>
(9) 研修参加に対する保育者の意識改革	①職員自らのキャリアアップを図るために必要な研修への積極的参加の推進	みどりは 41 回、清武みどりは 60 回の研修に参加し、全職員がキャリアアップに必要な研修を受講することができた。（新規採用者は別途研修会に参加）
(10) 園内研修の推進	①園としての組織力や教育力・保育力向上のための研修報告会や園内研修の実施	保育環境改善プログラム年間 5 回、両園合同研修会 3 回を実施できた。また両園合同の研修会についてはプロジェクトの報告などを行い、実践したことを振り返ることができ

		<p>た。</p> <p><課題>全員の参加を目指しているが、土曜保育があり、交代での参加となった。内容については今後とも実践報告を行い、子ども理解を深めるとともに、職員の困り感の解決やヒントに繋がる研修会の内容を検討する。</p>
(11) 子育て支援	<p>①乳幼児期の教育・保育センターとしての役割を果たす。</p> <p>②一時預かり（幼稚園型／預かり保育）の充実</p> <p>③未就園児の体験教室や子育て相談会を定期的開催</p>	<p>チャイルドルームを6回開催した（みどり）。ここにこルームを10回開催した（清武みどり）</p> <p><課題>満3歳児の保育の実施。未就園児の体験教室の増、多機能的な保育形態についての検討が必要である。</p>
(12) 施設・設備の改善充実	<p>①安全な環境で安心して教育・保育ができる施設・設備の整備</p>	<p>技術員を採用したことにより、施設・設備の整備を進めることができた。</p> <p>子どもの飛び出しなど気になる箇所があったので柵を作ってもらい、対応することが出来た（清武みどり）。</p> <p><課題>セキュリティーの充実のため、デジタルロック、塀の設置が課題である（みどり）。技術員が1人になることで、バス乗務以外の作業について何を優先するか確認しながら行う（清武みどり）。</p>

3. データ編

1. 入学(園)者数の推移 (各年4月1日現在) ※編入学除く

		2014 H26年度	2015 H27年度	2016 H28年度	2017 H29年度	2018 H30年度	2019 R1年度	2020 R2年度	2021 R3年度	2022 R4年度	2023 R5年度
大学院	国際教養研究科										6
大学	国際教養学部	53	60	56	68	87	120	115	78	88	61
	教育学部	27	41	34	42	44	52	44	56	54	47
	合計	80	101	90	110	131	172	160	135	142	108
短大	保育科	227	233	201	221	220	197	202	186	154	157
	現代ビジネス科	44	42	37	48	40	38	30	42	38	49
	福祉専攻	43	36	34	38	25	14	25	25	11	25
	音楽療法専攻	9	7								
	合計	323	318	272	307	285	249	257	253	203	231
高校	特進科	72	66	72	86	96	109	85	108	99	111
	普通科	145	157	135	123	141	122	152	161	162	207
	経営情報科	54	43	42	42	45	35	58	58	53	52
	音楽科	20									
	合計	291	266	249	251	282	266	295	327	314	370
中学校		65	69	71	83	102	98	97	100	102	96
こども園	みどり	34	59	81	74	79	63	73	62	58	65
	清武みどり	39	44	36	52	31	34	28	24	29	24
	合計	73	103	117	126	110	97	101	86	87	89
総入学(園)者数		832	857	799	877	910	882	909	901	848	900

※みどり幼稚園はH28、清武みどり幼稚園はH29に認定こども園移行により定員増(2・3号子ども含む)

2. 在籍者数の推移 (各年5月1日現在)

		2014 H26年度	2015 H27年度	2016 H28年度	2017 H29年度	2018 H30年度	2019 R1年度	2020 R2年度	2021 R3年度	2022 R4年度	2023 R5年度
大学院	国際教養研究科										6
大学	国際教養学部	266	248	239	232	270	335	381	388	380	331
	教育学部	27	68	98	140	158	170	178	190	199	189
	合計	293	316	337	372	428	505	559	578	579	520
短大	保育科	449	447	420	423	437	408	391	385	334	300
	現代ビジネス科	44	82	80	87	86	75	67	71	78	87
	人間文化学科	46									
	初等教育科	23									
	音楽科	8									
	福祉専攻	43	36	34	38	25	14	25	25	11	25
	音楽療法専攻	9	7								
	合計	622	572	534	548	548	497	483	481	423	412
高校	特進科	216	202	205	219	242	271	274	297	286	304
	普通科	500	467	427	397	397	389	408	421	455	518
	経営情報科	180	162	140	124	128	116	132	146	155	149
	音楽科	60	34	19							
	合計	956	865	791	740	767	776	814	864	896	971
中学校		148	175	206	221	252	280	296	293	299	296
こども園	みどり	168	182	210	240	240	234	245	226	213	210
	清武みどり	157	164	155	173	173	181	174	163	152	133
	合計	325	346	365	413	410	415	419	389	365	343
総在籍者数		2,344	2,274	2,233	2,294	2,408	2,473	2,571	2,605	2,562	2,548

※みどり幼稚園はH28、清武みどり幼稚園はH29に認定こども園移行により定員増(2・3号子ども含む)

4. 令和4年度事業計画に係わる履行状況(PDCA)

		学校名【清武みどり幼稚園】				
		令和6(2024)年2月20日現在				
区分等	Plan(行動計画) ※事業計画より抜粋 ○完了 △実施中 ×未実施 のいずれかを右欄(D&C)へ記載	Do & Check (実施・評価)				Action(改善等)
		7月	10月	1月	4月	左記 D&C が×の場合、状況を簡潔に記載
1.21世紀型保育の実現	①これまでの保育を振り返り、今、そしてこれから求められている保育のあり方を究明する。	△	△	△	○	
	②国や全国の幼児教育・保育の動向について、短大・大学と連携し、情報収集に努める。	△	△	△	○	
	③必要に応じて先進地視察を行う。	△	△	△	○	
	④目指す21世紀型保育の姿を明確にし、保育目標を見直す。	○	○	○	○	
	⑤21世紀型保育の具現化のために「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」をはじめ年齢別年間指導計画や各種計画の見直しを計画的に行っていく。	△	△	△	○	
	⑥目指す保育の実現のために必要な絵本や玩具等の環境整備を進めていく。	△	△	△	○	
2.一人でも、みんなでも遊ぶことのできる教育・保育環境の充実	①園児一人一人の発達段階を考慮した教育・保育活動の推進	△	△	△	○	
	②特色ある教育・保育活動の推進(英語であそぼう、音であそぼう、ボールであそぼう)	○	○	○	○	
	③園庭の新たな遊具の選定及び遊具の配置の見直し	×	×	×	×	園庭の遊具や遊びの充実につながる環境構成はできなかったが、遊具とテントとブランコを工夫し、未満児の園庭のスペースを確保した。
	④多様な園外保育の実施(芋掘り、みかん狩り、施設見学、園周辺散歩等)	△	△	△	○	
	⑤集団の一員としての気持ちを育む当番活動の推進	△	△	△	○	
	⑥クラスや学年、縦割り等の多様な集団での活動の推進	△	△	△	○	
3.相手に気持ちが伝わる「あいさつ運動」の推進	①登園時・降園時の気持ちのよいあいさつの推進	△	△	△	○	
	②毎学期の「あいさつ名人」表彰【清武みどり】	×	×	×	×	今後は行わない方向で検討中
4.豊かな心を育む教育・保育環境の充実	①安定した保育者と園児との関係を築き、園児一人一人が自分の居場所を実感できる保育環境の充実	△	△	△	○	
	②自然現象や動植物に触れる機会や環境の整備	△	△	△	○	
	③異年齢交流や地域との触れ合い活動等を通して「思いやり」や「ありがとう」の気持ちの醸成	△	△	△	○	
	④「読み聞かせ」や文化活動の導入	△	△	△	○	
5.健康・保健・安全面に配慮した教育・保育環境の充実	①保育者と一緒に遊ぶ室内・室外遊びの充実	△	△	△	×	保育者は子どもの安全のための見守りが中心となりがちであった。一緒に遊びながら遊びが発展・充実するようにする。
	②保育環境の整備と危機管理体制の充実	△	△	△	○	
	③交通安全教室の実施	×	○	○	○	
	④毎月の避難訓練及び安全点検の実施	△	△	△	○	
	⑤感染予防対策の徹底と清潔の保持、及び保護者への情報提供と共有	△	△	△	○	
	⑥園医による内科検診及び歯科検診の実施	△	△	○	○	10月分延期⇒11/16・17実施
	⑦学校薬剤師による定期検査適宜指導	△	△	△	○	
6. SDGs	①食に関する指導の充実 (SDGs目標2関連) 【みどり/清武みどり】	△	△	△	○	
	②保護者と連携し、ペットボトルキャップを収集する。(SDGs目標12関連) 【みどり】	△	△	△	△	
	③毎月一回、給食会議を行い、園児の食の実態を把握し、こども園としての食育の充実を図る。	△	△	△	○	
	④保護者を対象にした給食試食会を実施し、献立に対する理解の場を設定する。	×	×	×	×	新型コロナ感染症拡大防止のため実施していない。
とを育てる教育・保育環境の充実	①動植物や季節等、自然の変化に気づける場の設定	△	△	△	○	
	②園児一人一人の気づきを表現させる場の設定	△	△	△	○	
	③園児一人一人が遊びを工夫する場の設定	△	△	△	○	
8. 「人材育成制度A&Aチェック」活用による教職員の資質向上	①職員の職能向上や日々の保育の充実を図るための職員との個別面談や学期毎の自己評価シートによる振り返りの実施	△	△	△	○	
9. 研修参加に対する保育者の意識改革	①職員自らのキャリアアップを図るために必要な研修への積極的参加の推進	△	△	△	○	
10. 園内研修の推進	①園としての組織力や教育力・保育力向上のための研修報告会や園内研修の実施	△	△	△	○	
11. 子育て支援	①乳幼児期の教育・保育センターとしての役割を果たす。	△	△	△	○	
	②一時預かり(幼稚園型/預かり保育)の充実	△	△	△	○	
	③未就園児の体験教室や子育て相談会を定期的開催	△	△	○	○	
12. 施設・設備の改善充実	①安全な環境で安心して教育・保育ができる施設・設備の整備	△	△	△	○	

5 令和4年度 こども園合同研修会計画及び保育環境改善プログラム勉強会日程

日時	研修内容	講師
3月24日 3月25日 16時00分～ 16時45分	脳科学的エビデンスに基づいた21世紀型の幼児教育・保育 ○「前頭前野/前頭連合野の重要性」 ① 脳科学の立場から見て、幼児教育がなぜ重要か ② 幼児期の脳を発達させるために必要なことは	(場所：清武みどり) (場所：みどり) 宮崎国際大学 村上 昇学長
4月3日 9時00分～ 12時00分	第1回合同研修会 ○「宮崎学園が目指す子どもが主体となる教育・保育」 ○園の方針 ○新しい園務・チームと春のプロジェクトについて	(場所：宮崎みどり) 小川美由紀 山下愛実
5月30日～ 6月1日	【第1回保育環境改善プログラム】 1日目：全体研修（18：00～21：00） 2日目：現場巡回・フィードバック・コンサルティング	日本知育玩具協会理事長 藤田 篤氏 堀之内信子氏
6月18日 13時00分～ 16時40分	第2回合同研修会 ○子どもから始まる指導計画と、実践を通して捉えた子どもの姿・記録とのつながり ○はるのプロジェクト“自然のいろ”の共有 ○なつのプロジェクト“ひなたとひかげ”について	(場所：みどり) 小川美由紀 山下愛実
7月26日～ 28日	【第2回保育環境改善プログラム】 1日目：全体研修（18：00～20：00） 2日目：現場巡回・フィードバック・コンサルティング	日本知育玩具協会理事長 藤田 篤氏 堀之内信子氏
9月27日～ 29日	【第3回保育環境改善プログラム】 1日目：全体研修（18：00～21：00） 2日目：現場巡回・フィードバック・コンサルティング	日本知育玩具協会理事長 藤田 篤氏 堀之内信子氏
10月26日～ 28日	【第4回保育環境改善プログラム】 1日目：全体研修（18：00～20：00） 2日目：現場巡回・フィードバック・コンサルティング	日本知育玩具協会理事長 藤田 篤氏 堀之内信子氏
1月9日 13時30分～ 16時00分	※午前中：宮崎学園FD・SD合同研修会 第5回合同研修会 ○講演「こどもまんなかの教育・保育を考える」ほか	(場所：高校) あがた幼稚園 伊豆元精一先生
3月6日～ 8日	【第5回保育環境改善プログラム】 1日目：全体研修（18：00～21：00） 2日目：現場巡回・フィードバック・コンサルティング	日本知育玩具協会理事長 藤田 篤氏 堀之内信子氏
3月25日 9時00分～ 12時00分	第6回合同研修会 ○あきのプロジェクト“わたしの力、みんなの力”の共有 ○R4年度振り返り、R5年度の取り組み	(場所：短大) 小川美由紀 山下愛実

6. 教育・保育等に関する保護者アンケートの結果と考察

令和5年度 清武みどり幼稚園 教育・保育に関する保護者アンケート

<p>①保護者に教育方針や教育目標を分かりやすく伝えている。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと 言えぼそう 思う ● 2どちらかと 言えぼそう 思わない ● 1そう思わ ない</p>	<p>⑪保育者は、子ども達に笑顔で温かい言葉遣いや態度で接している。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと 言えぼそう 思う ● 2どちらかと 言えぼそう 思わない ● 1そう思わ ない</p>
<p>②教職員が連携、協力して活動に取り組んでいる。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと 言えぼそう 思う ● 2どちらかと 言えぼそう 思わない ● 1そう思わ ない</p>	<p>⑫保育者は、子どもを認め、子どもの意欲や自信を育もうとしている。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと 言えぼそう 思う ● 2どちらかと 言えぼそう 思わない ● 1そう思わ ない</p>
<p>③保育者は、子ども一人ひとりが愛されることを通して、自分を大切に、まわりの人を大切にできる心を育もうとしている。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと 言えぼそう 思う ● 2どちらかと 言えぼそう 思わない ● 1そう思わ ない</p>	<p>⑬保育者は、子どもが安全に安心して生活できるよう、遊具・施設等の事故防止に努め、保育室内を清潔にしている。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと 言えぼそう 思う ● 2どちらかと 言えぼそう 思わない ● 1そう思わ ない</p>
<p>④保育者は、子ども一人ひとりが遊びに没頭したり、新しいことを考えたり、今やることに一生懸命取り組める力を育もうとしている。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと 言えぼそう 思う ● 2どちらかと 言えぼそう 思わない ● 1そう思わ ない</p>	<p>⑭本園は、地震、火災、不審者等危機管理に関する対策を行っている。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと 言えぼそう 思う ● 2どちらかと 言えぼそう 思わない ● 1そう思わ ない</p>
<p>⑤本園は、子どもの遊びや生活の充実に努めている。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと 言えぼそう 思う ● 2どちらかと 言えぼそう 思わない ● 1そう思わ ない</p>	<p>⑮保育者は、職務にふさわしい身なり、節度ある行動・態度がとれている。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと 言えぼそう 思う ● 2どちらかと 言えぼそう 思わない ● 1そう思わ ない</p>
<p>⑥本園は、保育の中で五感を通してさまざまな体験や遊びができるように工夫している。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと 言えぼそう 思う ● 2どちらかと 言えぼそう 思わない ● 1そう思わ ない</p>	<p>⑯本園は、便りや連絡帳で保護者の立場を考えた適切な内容を伝えている。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと 言えぼそう 思う ● 2どちらかと 言えぼそう 思わない ● 1そう思わ ない</p>

令和5年度 清武みどり幼稚園 教育・保育に関する保護者アンケート

<p>⑦本園は、子ども1人ひとりの個性（良さや可能性）を大切にしている。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと言えはそう思う ● 2どちらかと言えはそう思わない ● 1そう思わない</p>	<p>⑦保育者は、文書や会話等を通して子どもや園の様子を伝えてしている。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと言えはそう思う ● 2どちらかと言えはそう思わない ● 1そう思わない</p>
<p>⑧本園は、子ども1人ひとりが生き生きと主体性に取り組めるよう活動を工夫している。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと言えはそう思う ● 2どちらかと言えはそう思わない ● 1そう思わない</p>	<p>⑧保育者は、保育者の意見や相談等に対して適切に対応している。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと言えはそう思う ● 2どちらかと言えはそう思わない ● 1そう思わない</p>
<p>⑨本園は、子どもが自ら考えて遊びに取り組もうとする気持ちを育てている。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと言えはそう思う ● 2どちらかと言えはそう思わない ● 1そう思わない</p>	<p>⑨本園の教育・保育に満足している。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと言えはそう思う ● 2どちらかと言えはそう思わない ● 1そう思わない</p>
<p>⑩お子様は、園での生活を楽しんでるようである。</p>	<p>● 4そう思う ● 3どちらかと言えはそう思う ● 2どちらかと言えはそう思わない ● 1どちらかと言えはそう思わない</p>	<p>【参考】 ● そう思う ● どちらかといえばそう思う ● どちらかと言えばそう思わない ● そう思わない</p>	

その他気になることなど、自由にお書きください。	ご意見有りがとうございます
<p>楽しく過ごしていて安心しています。</p>	
<p>今年度もお世話になりました。 大きな怪我もなく1年を<u>楽しく過ごせて感謝</u>しています。来年度もよろしくお祈りします。</p>	<p>アンケートに貴重な御意見頂戴することができ有り難うございました。耳の痛い御意見にも接しながら、務めて複眼的に見ていく必要を感じました。そして常日頃できるだけ丁寧なコミュニケーションをとり、共通理解を築いていくことが大切だと反省しました。</p>
<p>質問に対しての回答で、どちらかと言えばそう思う、と回答した点については、送迎時の子どもの様子、月一回のこどもえんだよりでの紹介を拝見してです。遊びは充実していると思いますし、先生方の子どもへの対応もどうかは見えませんが、ちゃんと向き合っていると感じるしかありません。 そう思わない、どちらかといえばそう思わない、に関しては、いずれも、<u>情報が少ない</u>と思うからです。(先生の子どもへの対応もそうですが、信じるしかないのでそう思う、にしています) 他の保護者の方はもっと園での活動を見ているのかもしれませんが、私自身は1、2年前に比べて個々の子どもの様子はわかりにくく見えません。園からの発信としては、<u>おうちえん</u>などで写真を掲載しているから十分だとの認識かと思いますが、子どもがどんな風に過ごして、園ではどのような様子なのかはほとんどわかりません。</p>	<p>コミュニケーションの前提は安全・安心です。子どもにとって先生がいつも自分の気持ちを否定せず受け止めてくれること。保護者も保育者も同様です。その三者が生き生きしていられることが良いこども園の大前提になると思います。 多忙と人手不足が立ちはだかりますが、工夫していかねばなりません。 幼稚園時代は子どもは14時で帰るのが普通でしたが、今は最長19時まで預かります。保育者の働き方改革も待たなしです。保育者の勤務時間中に書類仕事も含めて全てを終えられることを目指し、子どもと関わらない時間帯(ノンコンタクトタイム)のほか休憩の時間も確保しなければなりません。 保護者の安心・安全感のためにはお子様の様子等をこまめに情報共有することが必要ですが、限りある資源</p>
<p>日中の様子を言われる事が全く無いわけでは無いが、お迎え時に言われるのは主に特記事項だったので、<u>園でどんな活動やどんな風に過ごしてるのか分りにくい所があった。</u></p>	<p>(人手、時間、ツール)の中ではICTの活用を考える必要があります。手始めがドキュメント(画像)による発信です。「百聞は一見に如かず」を期待しているのですが、十分とはいきません。スキルアップも図りながら、他の工夫もしていきます。</p>
<p>先生たちから思ったことや気づいたことを<u>もっと教えてもらえると嬉しい</u>です</p>	
<p>いつもお忙しいなか<u>連絡帳に様子を書いてもらって</u>ありがとうございます。まだ1歳なので自分で幼稚園で何をしたか話すことができないので、毎日どういうことをしたか書いてもらっているのが楽しく読んでいます。</p>	<p>新事業の効果測定について、本年度は未満児の育児担当制について短大の先生方の手を借りながら調査しているところです。</p>
<p>いつも子供の相談に真剣に向き合ってください、夫婦揃ってとても感謝しております。先生達みなさん子供の名前を覚えてくださっていて、<u>心配り、気配り</u>に驚かされることが多いです。子供を安心して預けられてます。ありがとうございます。</p>	<p>以上児の異年齢保育は3年で完成します。1年目とは違った姿がこれから見られるのではないかと期待しています。昨年の6月に入るまではなかなか落ち着かず心配しましたが、それ以降は落ち着いてきて異年齢の良さが徐々に発揮されているように感じます。</p>

いつも、丁寧な保育、お帳面、ご対応ありがとうございます。運動会、発表会ともに子どもの好きや言葉を受け止めたものなのだろうなということが伝わってきて温かい気持ちになりました。次年度からは縦割り保育。以前から、以上児さんの作ったお化け屋敷やパン屋さんにお邪魔したり、以上児さんの部屋で遊んだりと縦の交流の機会が多く、名前を覚えていたり、覚えてもらったり、進級に期待を持っている様子で安心しています。これからも、どうぞよろしくお願い致します。

毎日楽しく登園できていることは、園の先生方のおかげです。毎日本当にありがとうございます。

現場の先生方は、とても一生懸命に子どもたちのことを考えて接して下さい、とても感謝しております。

ただ、先生方の負担が大きくなって、疲弊していないかなと感じるようになりました。

異年齢保育という改革には苦勞はつきものかもしれませんが、

子どもたちを守るのは、身近にいる先生方がイキイキと仕事できてこそ、成せるものだと考えます。

さらなる園の取り組みをお願い致します。

そして、出来れば、

異年齢保育になって一年が経過していますので、園側としての手応えや見直す点、今後の方針を、アンケートの結果を踏まえて、教えて頂くと、

親としては共有できて、子育てを考えていくきっかけになると思いましたので、宜しくお願い致します。

平素より、こどもたちが大変お世話になっております。

我が家は7年前（富高園長先生の時）から、こどもたち4人が清武みどり幼稚園へ順次入園しております。当時の先生方には現在も大変お世話になっております。

両親共に働いていますので、お迎えが夜遅くなることも数えきれず、また、産後の復帰も早かったため、一歳に満たないこどもたちをみてもらいました。大変なことも多々あったかと思いますが、いつも支えていただき、感謝しております。

清武みどり幼稚園は、先生方がこどもに寄り添い、時間をかけて一緒に問題を解決してくれ、ひとりひとりを丁寧にみてくれています。

今年度から異年齢保育になり、率直な感想としましては、保育者の数が前年度と同じかそれ以上だと、園の目指す理念に

本園としては、未満児が育児担当制を通して保育者とのしっかり信頼関係を築き、以上児の異年齢クラスに進級していくなかで最終的には目指す姿が完成すると考えています。しかしそれは毎年の子どもにとっての最善を追求する努力を積み重ねることによって実現されます。さまざまな御意見を頂戴しながら検討を重ねたいと思いますので、ご協力をよろしくお願い致します。

率直な御意見お寄せいただき、有り難うございます。

お子様4人を清武みどり幼稚園に入れていただきありがとうございます。これまでの良さを気に入っていただけに、目指す変革に不安を感じていらっしゃるのかもしれませんが。

学校(園)側が設定した単一の目標に多人数の子どもが到達できるように説明、問題、回答へのフォローによって全員の目標の到達を目指す。これが近代の学校教育(授業)がたどり着いた基本形でした。1人ひとりの間違いに丁寧に対応することで完璧な授業が完成します。しかし与えられた単一の目標を追求させることで、衰退するのが主体的な目標の追求と経験による成長の力強さです。どんどん自分で挑戦し、成功も失敗も自分の成長の糧として吸収し、自分の世界を広げ自

沿う保育、教育ができるのではないかと推察いたします。現場の先生方の質そのものはこれまで通り、変わっており、子どもたちに向き合う姿勢も変わらないと思っております。ただ、園の方針が変わったことで、現場の先生方がこれまでの質を維持するのに大変なエネルギーを要していることは、私も含め、多くの保護者が実感していると思います。保育者の数が今以上に必要だと感じた場面として、外遊びが減ったこと、十分な安全が確保しにくくなっていること、園外行事が減ったこと（それぞれの子どもがそれぞれの担任と行けない行事もあること）、敬老の日をはじめ、制作活動が少なくなったこと、運動会や発表会で、すべての年齢児が同じ活動や発表をすることで、それぞれの年齢の差や成長を実感しにくかったこと（個人的には各学年のダンスも見たかったです）などです。また、数年前から以上児の連絡帳がなくなったことに関しても、十分な人員があれば確保できる場所ではないかと察します。連絡帳がある頃は、先生方はお忙しい中でも、一言二言、先生によっては、隔日で丁寧にお返事をくださっていて、園での様子が安心してわかる場所でした。今でも読み返すと、我が子の当時の様子とあたたかい先生方の眼差しにほっとしますし、子どもたちも喜んで聞いてきます。

異年齢保育で子どもたちが交流することはいろんな刺激があり成長にもつながるいい側面もあると思います。一方で、それぞれの子どもたちが、その年齢に応じた遊びや行事、イベントを同年齢の子と経験することは、友だちに癒される、という人間関係を育んだり、それぞれの発達段階においた成長を順序だててできると言う点で、とても、大事な要素を育むと思います。保育者の数が十分数あれば、年長さんが年少さんのお世話をする中で、年長さんは年齢相応の遊びができずフラストレーションが積もる、と言うことは避けられるかもしれませんが、お世話をするには、経験にはなるかもしれませんが、十分なフォローがないと、年少さんが思い通りには動いてくれず、イライラがつのり、自信にはなりにくいのではないのでしょうか。お世話をされる子も、必然的に年長さんのレベルまで適応しようとし、実際の生活年齢とかけ離れたことをすることで、自信をかえって失うことになるかもしれません。十分な保育者がいれば、もっと年齢ごとの活動を増やせるのではないのでしょうか。就学前の子達に関しては特にそう思います。

園の大切にしている主体性も、それぞれの子の主体性を尊重するのであれば、それをフォローするだけの人力と時間が必要かと思えます。一方で、幼児期にはある程度大人が主導権

分の壁を破っていく人間が、前例のない未来を生きる人間には必要です。それが本年が今建設途上にある「根っこを育てる」保育です。

年齢的な発達段階に合った教育・保育ということはあまりいわれなくなりました。画一主義からその子の成長上のさまざまな課題、それをどう乗り越えていけるかに眼を向けようということです。もちろん子ども園を卒園する時にはこれくらいのことはできるようになって欲しいねという姿は平成29年に出された「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」には示されています。

仰られるように、欧米と比較すれば雲泥の差です。本園は国の定めた水準に足りているのはもちろんですが、1人ひとりの子どもに対応してもっとこんなことをしてあげたい、保護者の方々と十分なコミュニケーションを取ってもっと話したい等々の願いはあります。

来年度は人員配置も工夫しながら経験を活かし、前進していきます。言い訳にははいけませんが、子ども主体の保育は手取り足取りする保育ではなく、子どもが自分で気づき挑戦する保育です。それを誘う個々に必要でやってみたくなる環境を準備するのが保育者の工夫です。

子どもが元気で保育者も元気、保護者も元気、いろいろな行事、仕事、人員、収支、個別最適とはいかずとも、全体最適なバランスを追求していきます。どうぞまた御意見お聞かせください。そしてご理解・御協力を頂戴できますようお願い申し上げます。

<p>を握って、興味の幅を広げ、意欲や想像力、発想力が広がることを手助けしていくことも大事だと思います。</p> <p>遊びにしても、敬老の日や父の日、母の日にしても、子どもが自らこれをしたいです！と言えるのは、そういう行事や伝統をきちんと教えて理解した後だと個人的には考えておりますので、これまで通り、行事ごとの制作活動をしていただくのも、子どもの、教育の一環としてはよいのかと考えています。もちろん、多様性の時代ですので、いろんなご家庭もいらっしゃると思います。複雑な状況もありますため、積極的にお願いはできませんが、家族がお互いを見つめる良い機会になるとも思います。</p> <p>人件費等々あるとは思いますが、こどもたちのことも、保育者のことも守った上での保育、教育をよろしく願いいたします。</p>	
<p>昨年度まで取り組んでいたが<u>今年度からやめたこと</u>がいくつかあったと思います。新しいことを始める時は積極的に発信しやすいと思いますが、方針や体制が変わった1年目だったので、<u>やめることについても、その根拠や代替案など丁寧に説明して頂きたかった</u>です。</p> <p>先生方の服装は、大きな行事のとき以外は自由なのでしょうか。また、保育する服装で通勤したり帰ったりされているのでしょうか。保育中の服装は、統一されている方が清潔感があると感じました。<u>通勤と保育中の服装を分けることは、感染予防の1つになる</u>と思います。</p>	<p>御意見有り難うございます。今後への反省点として活かしていきたいと思います。職員の服装についても、子どもへの親しみやすさを考えておりますが、感染予防対策という面も考えていきたいと思います。</p>
<p><u>未就園児の一時保育</u>などがあれば、とても助かります。参観日など上の子の成長を見れる機会なのに、下の子を連れてだとそちらにも対応しないといけないので、、。毎日とは言わないので、参観日など園の行事の際には1時間だけでも、一時保育をしていただければ、、。保育士さんの人手不足など問題はありますが、是非検討していただければ有難いです。もちろん有料でも構いません。</p>	<p>是非実現したいと考えています。保護者のニーズにできるだけ応えて便利にしていくことは、子育て支援の重要ポイントとだと思っています。まずは体調不良児保育の実現、そして次が未就園児の一時保育です。ネックは人の手配です。園児数は4月を最低に徐々に増加していきます。0歳児は3人の子どもに1人の保育教諭（常勤・非常勤含めて）が配置されなければなりません。そのとき時の状況に応じて固定配置ばかりでなく、フリー配置を増やしてやりくりをしていこうと考えているところです。駐車場をもっと安全で使いやすく検討しましたが、現在の広さの中では、今の使</p>
<p>・他園の保護者の話を聞く機会があり、比較するわけではないですが、他園より<u>本を沢山読んで頂いている</u>ようで、有り難いです。預り保育の時間までも本を読んで頂いているので教育にとっても良いと思います。ありがとうございます。</p>	

<p>・天候が良い時はできる限り、外で遊ばせて欲しいです。また、同じクラス（1歳児）でも月齢で<u>外で遊ぶ子と部屋で遊ぶ子を固定するのではなく、外と室内で遊ぶ子を交互にする等の工夫をして欲しいです。体を使う遊びをもっと取り入れてほしいです。</u></p> <p>・未満児は汚れない限りお着替えをせずに帰宅していますが、午前中に外遊びをした際は、外遊びした洋服でご飯を食べることになるので、<u>ご飯前にお着替えをさせて欲しいです。</u>明らかな汚れがなくとも、身長が低いこともあり土埃等がより付着しやすいと思います。</p> <p>・お帳面で「ミーティング」「印のみ」「おうちえんだより」等で、<u>コメントをしないことが多い</u>と感じます。その場合は、お迎えの際にもっと子供の様子を具体的に伝えて頂けると助かります。<u>「変わりありませんでした」とよく言われますが、それでは分かりません。</u></p>	<p>い方が一番有効活用できるとの結論に至りました。長年お願いしていた JA 宮崎の駐車場をお借りすることができたので園舎に近いところの駐車場を現在、保護者にご利用いただけるようになりました。園に入る市道のところが狭く、ご迷惑をお掛けしていますが、駐車場台数については少し解消できたのではないかと考えています。</p> <p>施設設備についても、優先順位を考えて整備していきます。園庭（特に未満児）の充実のため3月から工事に入ります。すてきなアイデアはあるのですが、何年かかけての計画になりそうです。</p>
<p>こどもが先生方のことが大好きで、安心して楽しく過ごせています。<u>日々の遊びや製作を、目の前に居るこどもたちの発達や興味に合わせて考えて下さっていることがとても嬉しく、ありがたく思っています。</u>いつもこども達に丁寧に関わって下さり、ありがとうございます。</p>	<p>朝の出欠確認は、Ipad での入力と担任の給食発注それらを事務で確認して担任あるいは保護者への確認と毎朝の子どもさんの安全確認のため気の抜けない作業です。そこをなんとか ICT を活用して便利にできないか検討を重ねているところで、いただいた御意見を更に参考にして参ります。有り難うございます。</p>
<p><u>玄関をオートロックにした方が良い</u>と思います！ 他の園では結構普通にオートロックになってますよ！ 危なすぎます。何かあってからじゃ遅いです</p> <p>おうちえんの写真でしか園での様子が分からなくて楽しみにしているのので、<u>毎日更新</u>して貰いたいです。</p>	

<p>1、園内に誰でも入れるので不審者が<u>侵入</u>しないかいつも不安に思っています。2、今年から活動の方針が変わったようですが、<u>年中ずっと同じテーマ(おばけ)</u>だったのでもっと色々な活動をしてほしいと思いました。3、数年前からアプリにてこのようなアンケートを取っていますが、<u>匿名性</u>は守られているのでしょうか。本音を書けません。いつも先生方の明るく優しい対応に感謝しています。子どもを<u>安心して任せられます</u>。ありがとうございます。</p>	<p>ここまですれば十分というのはなく、起きた結果が全てですので保護者の皆様、一番心配になられるところだと思います。いつもお子様の命を預かっているのだという自覚を持ち、色々な危険を予想しながら、対策を考え、訓練し危機管理能力を高めていきたいと考えています。防犯対策はハード面では、朝夕の混雑時は外門を開けて職員が対応に当たりますが、それ以外の時間帯は外門には電磁ロックをかけて用件を確認してから解錠するようにしています。入り口は24時間防犯カメラで録画しています。更に内門の解錠が勝手にできないように業者と調整をしているところです。更に全ての保育室その他に防犯カメラを導入し録画できるシステムも検討中です。毎月の防災訓練では、回を重ねる毎に自分で判断し命を守れる行動をとれることを目標にしています。防犯対策訓練では保育者が子どもを侵入者から守れるよう迅速に避難誘導できる訓練を行っています。その他、AED研修、エピペン研修も毎年行っています。アンケートの匿名性ですが、厳密な意味での匿名扱いにはなっていません。外に公表される時は誰が書いたものか分からないようになっていますが、編集の過程では知ろうと思えば知ることができるようになっています。園としてはいつでも思っていることを気兼ねなく話していただける信頼関係を築いていきたいと願っています。</p>
<p>来年度から<u>誕生日会</u>がなくなるようですが、楽しみにしていたので残念です。 なぜ開催しなくなるのでしょうか。</p>	<p>ご質問有り難うございます。保護者の皆様にとってはお子様の園での様子を間近に見られる機会でした。ただ一月に1回だと登壇者も多く形式的に進行せざるを得ない側面もありました。一人一人を大切にすることについて職員で話し合い、お誕生日の日に、その子に誕生日バッチをつけてもらい、クラスではその子に合わせた質問ゲームなどを企画して祝おうということになりました。バッチをつけることでクラスの子だけでなく、いろいろな人から“おめでとう”の声を掛けてもらえ、特別な日として過ごしてくれたらと思っています。 今後、更に保護者の皆様の声にも耳を傾けながら、子どもを中心としたさまざまな企画を考えていきたいと思っています。どうぞさまざまな御意見をお寄せ下さい。</p>

いつも丁寧な保育をありがとうございます。4月からは迎えを一階にしてください。以前のように戻していただくと、不審者対策にもなります。坂道での骨折もとてもかわいそうでした。よろしくお願ひ致します。発表会は以前のように、子供たちの成功体験になるものがいいと思います。支援学級を目指している子にはいいですが、通常学級で頑張りたい子には物足りないかなあとすこし思いました。なんでもありよりは、年長さんだけでも以前のような取り組みをすることで自信をもって小学校に入学できます。昼寝も不要です。次年度もよろしくお願ひ致します。

保護者に新しい教育方針を認めさせること・主張することに躍起になりすぎて、子どもたちが置き去りになっているのでは？と思う場面が多々ありました。

4月からの迎えの件ですが、御意見ありがとうございます。コロナ禍では保育室へ入る人を限定する意味もあり、1階で行っておりました。1階で対応となると、保育者がその都度クラスを離れることになり、残っている子どもの見守りが難しくなります。2階へお迎えいただき、担任ともその日の様子などのお話ができる体制を考えています。ご協力いただけるとありがたいです。

成功体験、大切です。しくじり体験はなるべく小さく、成功体験はなるべく大きくと思っています。ただ今本園が大切にしたいと考えているのが、成功の基準の内在性です。他人の基準で他人から褒められて喜ぶよりも、自分でやりたかったことが、うまくいかないこともありつつ最後うまくいった時の喜びを大切にしたいということです。どちらも嬉しいことですが、後者が根っこを育てるということにつながると考えています。

そのようなご印象を持たれたなら申し訳なく思います。もしかしたら年長児発表会のこともかもしれません。発表会直後のアンケートでも園長が2回も登壇し演説する必要はない、子どもの発表がお粗末であった、子どもが活き活きせずやらされている感が強いという厳しい批評をいただきました。まことに申しわけありませんが、子ども達の練習不足は明白で、それというのもインフル・コロナが蔓延し、子どもの1/3が突如欠席し、前日舞台でリハーサルした中心人物に当日急遽代役をあてがい、挙げ句の果ては担任も2人がかけての中核が欠けたままの発表会だったので。ピアノを弾ける先生もいなくなり、急遽みどり幼稚園から助っ人をお願いしました。初見で何でも弾ける先生はそうはいません。舞台・観客を子ども達は一度も意識していません。子ども達を責めたのではあんまりです。そこで発表会とは言うが、子ども主体の保育の通過点だという園長の言い訳の主張でした。園長だけが格好つけた演説していると映ったのだとしたら、まことに表現不足です。そうではなくて、園の方針と子ども達の遊んでいる内容に乖離があるということでしたら、生きる根っこを育てる、子ども達がしたいことを思いきりさせることで経験的成長を積ませるということが不十分だということだと思います。これは仰る通りでもっともっと追求して、研修を積んで、

	<p>こども理解から子どもの成長の芽を見出す力を養っていかねばならないという事だと思います。頑張っています。</p>
<p>教育方針は、発表会の園長先生のお話でよく伝わりました。ただ、『子どもの主体性』のために、<u>保育者に大きな負担</u>が掛かりすぎていないか…が気になりました。『子どもの主体性』の中にも、保育者主導の場面も必要です。どうか先生方の体調（心と体のバランス）を守ってほしいと願います。これからも、清武みどり幼稚園のますますのご発展とご健勝を願います。</p>	<p>貴重な御意見有り難うございます。何度も繰り返して読みながら自分も保護者だったらそんな感想を持つだろうなと想像もしました。</p> <p>子どもの将来のために役立つこと、近い未来のことは想像が付きやすいですが、遠い未来のことへの影響は中々想像できません。小学校で習うことのドリルプリントを作り正解を競わせる。ゲームのようで面白い</p>
<p>・<u>異年齢保育</u>に代わり始めての1年でしたが、年長さんの負担が凄く大きかったのではないかと思います。まずイベント事では、学年ごとの出し物も少なく、<u>下の子達に合わせたレベルのもの</u>しかしてなかったなあという印象です。更に<u>小学校に上がる前の準備学習</u>もなかったと聞きました。他の幼稚園では<u>鉛筆の持ち方、ひらがな学習、時計の見方</u>までしているところもあります。そのような子と小学校のスタート時点ですでに差が生じていると思うと可哀想だと思いました。勉強については各家庭でさせるべきなのかもしれませんが、<u>お友達と一緒に練習するからこそ子供のやる気も</u>でるので、少しでも良いので幼稚園でも取り上げてほしいと思います。・<u>音で遊ぼう</u>が少なかったなと思いました。子供が好きな時間なので残念でした。・子供の主体性を育てることに力を入れていることは分かりましたが、<u>1年を通してずっと同じ遊び</u>しかしてないように思います。子供は、自分の知ってる遊びや経験からしか想像できないと思うので、時には違う視点からの遊びや経験などを子供に伝えて可能性を広げたり、<u>遊びの選択肢を増や</u>してほしいです。</p>	<p>し、いい点取れば親からも褒めて貰える。小学校へ行っても最初の内は知っていることで余裕でしょう。そんな風に行く先々で転ばぬ先の杖として学ばせておきたいことを考えれば、次々浮かぶことでしょう。スポーツも漢字も算数も礼儀作法も、訓練させただけ成績は上がります。その反面失われていくことは何でしょう。本園をはじめ先進的な幼児教育・保育施設が取り組みだした「生きる根っこ」を育てる、従来の知識・技能重視とは異なる非認知的能力なのです。自分から取り組みたいことを見つけ、経験を積み重ねながら落ち込まず反省しながら次の挑戦に挑む力です。自分がやってみたいことを基盤とした経験の連続的成長です。これは生まれれば終わりのない成長の物語となります。それが本園で追求したいことです。先生に教えられたことは「はなまる」もらえば一段落、自分がやってみたいことは挑戦してみることは追求されず棚上げです。絵本が好きになれば、本を読みたくくなります。漢字も読みたくくなります。積み木が好きになれば、バ</p>

先生方はいつも笑顔で接して下さり、毎朝クラスの担任の先生や保育補助の先生だけではなく、その他の先生方も子ども達の名前を呼んで挨拶して下さり、子ども達は嬉しい気持ちで登園することができているのではないかなと思っています。

また、子ども達のやりたいこと・興味のあることが実現できるよう、先生方が携わって下さり、日々の様子や発表会等でひしひしと伝わってきます。ありがとうございます。

また、娘は一度も幼稚園に行きたくないということはなく、逆に体調不良で休む時でさえも幼稚園に行けないと、がっかりすることがある位です。

それだけ、幼稚園が大好きなのだと思います。

娘は体を動かすことが好きなので、年度途中から体育教室に通い始めました。そのことを通して一つ感じたことがありました。それは、鉄棒や縄跳び等(繰り返し教えてもらい、練習しないとできない内容のもの)が、体の使い方が理解できないのか、少し難しいと感じることがあるようです。

先生方もいろんな行事や子ども達のやりたいことを優先して一生懸命行ってく下さるので、時間もあまり確保できない所もあるかもしれません。

しかし、体もとても成長する時期なので(難しいかもしれませんが)年長さんだけではなく、学年ごとに体操教室のようなものが少しだけでもあるといいのではと感じました。

とても長くなりましたが、清武みどり幼稚園に通うことができ本当によかったと思っています。たくさん友達もでき、少しずつ成長している姿が誇らしく、これからも先生方やお友達と共に支え合いながら楽しく過ごしてほしいと思います。

よろしくお願い致します。

体制が新しくなったばかりの頃でしたが、園外の公園に行った時に、遊具で遊びたいのに「年少さんが遊べないもので遊んだら、羨ましくなっちゃって可哀想だからダメだよ」と言われて遊べなかったと残念がっていたことがありました。下の子の面倒をみることで頼もしく思える反面、本当なら遊べるものなのに下の子と一緒にいることで思いきり遊べず我慢させることがあるのは違うと思います。年長さんに対して、〇〇してくれてありがとう、の喜びを育ててくれるのは嬉しいですが、そればかりにならないように気を配って下さるといいかと思います。

ランスを感じることを意識するようになります。先生が教えることなく自分で発見したことは、先生に言われて覚えたことと違って、身に付きます。

子ども達を誘う環境をもう少し多彩にしたい、laQだけでなく園庭や園外にも出かけて面白そうなものにもっと出会ってみたいと願っています。新しい保育・教育要領には「育ってほしい10の姿」が示されています。狭い世界に閉じこもることなく豊かな世界へ保育者は導いて行かなければならないと考えています。

それは面白くなかったですね。どんな前後の状況があったのか分かりませんが、危険があったのならともかく「下の子が羨ましがるから駄目」では異年齢の年長さんの意味がなくなります。下の子のお世話ができるのも大切ですが、異年齢で大切なのは「年長になったらこんなこともできるんだよ」という年下の憧れのモデルになることです。危険もコントロールしながら、自分の「最長不倒距離」を伸ばして、格好いいところいっぱい見せて欲しいと思います。

縦割りになり、年長は我慢の一年でした。
今までの幼稚園が素敵だったぶん正直残念な気持ちでいっぱい
です。
幼稚園の方針もわかりますが、それぞれがやりたいこと、出
来る事が年齢によって違う中で思い切りそれができなかった
り、邪魔が入ってしまったり、下の子優先しなくてはという
気持ちから毎日譲ったり諦めたりして、今日も〇〇でき
なかつたんだ～年長さんだけの遊びが本当に楽しい！思い切
り好きな事で遊べるの。という言葉が多く聞かれました。ク
ラスでの遊びは年長さんにとって制限の中の遊びなんだな～
という印象です。
年少と年長ではきっと保護者からの評価は違うと思いますが
…
子供から、先生がとにかく毎日忙しそう、大変そうで話せな
かったと言う事が多く
縦割りにするなら、もっと人員を増やして目を増やさなけれ
ば結局子供が我慢や遠慮する現状に繋がってしまうのではな
いかと思いました。
自宅でも子供3人見るだけで大変なのに…
怪我なく、それぞれのやりたい事を自由にとというのは難しい
のではないかと思います。結局全体のレベルを下げて～とい
う感じになってしまうのではないかと…
いつも先生方には暖かく見守って頂いて感謝しています。あ
りがとうございます。

異年齢保育により、年少年中児は年長児と触れ合うことでた
くさん刺激を受けていると感じます。年長児は年長同士でし
かできない遊びや活動などがもう少し増えると、園生活がよ
り充実するのではと思います。

今年は、青島や大淀川学習館、パン屋など外での活動が多く
とても充実した1年を過ごさせてもらいありがとうございました。息子は末っ子なので異年齢クラスでお兄さんらしさも
育ち合っていたと思います。伸び伸びと楽しそうに毎日通わ
せてもらいました。先生方から様子もたくさん伺うことがで
きたのも良かったです。ありがとうございました。

今年度から始まった縦割りのクラスに初めは私たち親のほう
が大丈夫かなと心配したりしていましたが、こどもに聞くと、たくさんのお友達と遊べて今年度のほうが今までより楽
しかったのことでよかったなあと思います。こどもにとって
は学年というくくりは関係ないようでほっとしました。毎
朝、笑顔で優しい言葉をかけてくださったことも嬉しかったです。
ありがとうございました。

異年齢の保育では年長さんにとって、クラスメイトを
モデルに刺激を受ける世界が狭くなって不利になる
というご心配、ごもっともだと思います。年下のリーダ
ーとしての体験も有益ですが、それに留まらずこれま
での自信を元に、保育室から世界へ、自然へ街へ本
の世界へ、それぞれが独自の面白い世界を探索しに出か
けて欲しいと願っているのです。お化け博士、むし博
士、飛行機博士いろいろな博士が出ています。お子様
の小さな芽の発見に向けて情報共有、そして水やりに
保護者の皆様と連携協力できたらと思っています。

いつもお世話になり、ありがとうございます。

今年度異年齢クラスが始まり、どのような感じになるのかと少し不安に思ってましたが、子どもは毎日楽しく過ごせていたようでした。

子どもたちが自分たちで考えて遊ぶ時間は多く増えたように思いましたが、園外保育の回数が少なく、園以外の環境に触れる機会がもっと多くあるとよかったなと思います。

前例踏襲は退歩 (23.10.16 職員会議)

社会・時代への貢献を目指して
脱「ガラパゴス」化、脱幼稚園化

★伝統志向から市場志向に留まらず、更に**未来志向**へ

幼稚園らしい → 人気がある

→ 子ども、保護者に、社会に本当に役立つ

① 組織運営の脱幼稚園化

PDCA サイクルの可視化、

IC ネットワークによる参加・共有

脱 (係の頭の中、誰かとの話、聞いていない、忘れた、分からない)

使命・目標の明確化 → タスク、課題の腑分け → 分担、スケジュール化

IC ネットワーク上で進行管理の見える化・共有・アイデア結集

② 報告・連絡・相談は組織の生命線

園の意志決定責任は園長、必要な情報が園長に集まり、それを元に園長は決定や対策を講じていく。部下の不始末は園長の責任、園長の不始末は部下の責任。

③ こども園は社会の関数でなければならない (幼稚園の伝統の関数であってはならない)

社会状況を把握し、本園の強みを生かし、社会に貢献する OUTPUT が生命

脱 (旧世代に人気、親世代に人気、子どもに人気、保護者に人気)

喜ばれるよりも、本当に大切なことは、本当に役立つこと、貢献できること

→ 子どもが人生、社会を切り拓く力を身につけること

→ 子ども園の未来化へ向けて、研究・企画・開発機能の確保

病児・病後児保育、一時預かり、一号利用緩和 (土曜、愛情弁当廃止、長期休業中の) 預かり保育、「こども誰でも通園制度」(空き定員を利用した)

④ 全職員研修(録画)

(1) 宮崎学園短期大学・保育講演会

大豆生田 啓友「こどもまんなか社会」時代の保育を考える～「共主体」の保育へ～

(2) 映画「こども会議」

8. 令和6年度へ向けての課題と対策

園内及び保護者とのコミュニケーション不足について

保護者アンケート数値部分においては、やっていることについてほぼ支持していただいている状況と思う。しかしさまざまな変化が、どうしてこうなったのか趣旨が良く伝わっておらず、時には不信感にもつながっているように思う。職員の声からも保護者と情報共有、共通理解が十分できていないとの指摘がある。非常勤の先生方においては更に日々の保育を支えながら、コミュニケーションのパイプに加われないもどかしさを抱えておられるだろうと思う。

まずコミュニケーションを可能にする条件整備、互いに訊いて欲しいことを送り合う手段を確保しなければならない。幼稚園時代であれば午後2時以降には余裕の時間があり、職員会議を十分行う時間をとれたが、今は朝7時から夕7時まで保育をしており、非常勤はもちろんフルタイムでも、全員が15分そろう時間を作るのは難しい。

職員会議の時間を確保するとともに、他の手段で代替できるもの新たに工夫していかなければならない。会議には3つの機能がある。①情報の共有と②気持ちの共有、そして③課題の解決策の検討である。

①情報の共有は質問や意見を乗せる双方向の機能があれば、メールでもラインでも時間・場所の制約なしに可能である。ICTリテラシーも使う毎に習得される。

しかし②気持ちの共有は、安心安全で、急かされることのない心理空間が必要である。個別面談はもちろん、インフォーマルな懇親の場、ふと声かけて立ち止まった会話ができることが互いの気持ちの理解、気持ちの共有につながる大切な機会であるが、軽視されていないか反省しなければならない。

③課題解決のための話し合いはいきなり大人数では捌ききれない。プロジェクトチームとして、目標の吟味、課題の腑分け、プランを関連部署と話し合った上で園長決裁を経て、情報共有ルートに乗せて、質問や意見を募り、双方向での理解促進を図るべきだろう。

グーグルのグループ機能を使ったフォームあるいはバスキャッチのアンケートを組み合わせ①の双方向の情報共有に、そして②不明や不安への対応にある程度は役立てられる。非常勤も含めた職員、保護者にも積極的に活用したい。年に数回ではなく、日頃からいつでも気づいたことを発言でき、共有できる仕組みを確保し、コミュニケーション不足の解消に役立てたい。また行事が親睦を深め気持ちを共有する貴重な機会であることを再認識したい。

寸断されないPDCAサイクルの確立

この10年で幼稚園の多くが、保育所機能を備えた幼稚園「こども園」に姿を変え、少子化対策を担う前線基地のような役割を期待されるようになってきている。本園が大きな社会の変化の中で、何に貢献しその社会的意義を果たしていくのか、目指す姿を不断に検証しながら

ら明らかにしていかなねばならない。外社会への貢献が意図通り行われるために、もう一方本園の組織が意図通り機能しているか不断に検証し、改善していかなねばならない。

それぞれの施設が社会的存在意義をもち生き長らえていくためには、その社会的機能(社会貢献度)を図り、伸長させていかなねばならない。

園全体の機能向上を考えたとき、部分の PDCA サイクルが全体の歯車の中で同じ方向を向き無駄なく機能しているかが問題である。園の目標が各保育現場での実践・評価まで貫徹するとともに、個々の問題の中から、全体の課題が抽出され、検討・対処されるサイクルがなければならない、結節点にいる各部門のリーダーは PDCA サイクルが循環するように責任を持つ必要がある。

来年度は本園に取って初めての公開保育である。目指す子ども像育成に向けてどう分担協力すれば効果を上げることができるのか、PDCA サイクルの連携を組み立てるチャンスとして挑戦したい。

こうした表の保育の挑戦を支えるのが、危機管理である。火災、地震等の避難訓練は毎月行われるが、実施した反省に基づく改訂は不十分で、考えられるリスクに対する包括的なマニュアルを作り、実際にやってみての検証並びに改訂という危機管理の PDCA を確立していきたい。

9. 令和5年度学校関係者評価委員

による指摘事項

頁数	テーマ	学校関係者評価委員の意見
6	21世紀型保育の実践	<p>●園長先生の着任の保護者向け文書の中に、目指す保育像を「人生を主体的に切り拓いていく根っこ」を育てると書かれている。そのため入園式から見直しをされ「こどもまんなか入園式」を実践されている。主体性を育てることは簡単なことではないが、これまでの活動を大幅に見直したり、新しい玩具を導入したりして取り組まれていることは極めて有効な手立てだと考える。</p> <p>●短大や大学と連携しての研修、各種講演会への参加など経験値だけに頼らない研修が実現できていると感じます。また、両園合同研修会の実施も保育者の資質向上と研修意欲向上に役立つものと思います。貴園の実態として、全員が同時に参加できないという課題に、研修内容を他の職員にどう広げていくかという工夫が必要になると考えます。</p>
7	1人でも、みんなでも遊ぶことのできる教育・保育の充実	<p>知育玩具の充実はすばらしいと思います。園外保育が多いことも子ども達が環境を通して学ぶ教育の実現に貢献していると思います。</p> <p>特別な支援を必要とする子どもは増加傾向にあります。個別の指導計画を作成されているとのことで支援体制が整っていると考えます。その指導計画に沿った全職員での共通実践がなされることでさらに充実していくことと思います。</p>
	研修の充実	<p>新しい取組のために研修の時間を多くみつけて取り組んでいらっしゃる。県外視察や外部講師を招いての研修も充実している。すばらしいことだ。キャリアの浅い職員にとって研修は不可欠であるし、変化の激しい時代においては、それに対応するために、なおさら研修は欠かせない。多用な毎日で大変だろうが、ちょっとした時間でも情報交換をしたりしてお互いを高め合っていただきたい。</p>
4	豊かな心を育む教育・保育環境の充実	<p>●絵本の読み聞かせはとても重要である。新しいものに目を奪われがちだがこうした地道な取組を今後もしっかり行っていただきたい。</p> <p>●異年齢保育は、思いやりの心を育てる上でも効果的ではないかと考える。</p> <p>●誕生日バッジのアイデアもいい。子ども同志で「おめでとう」を言い合うことはすばらしい。温かいアイデアをどんどん出してほしい。</p>

	保護者への対応	<p>●保護者の様々な意見に丁寧に対応されている。保護者の考え方も多様で、肯定的な意見もあれば否定的な意見もあるのも考えてみれば当然のことである。それに対して真摯に対応されているのはとてもすばらしい。園の信頼度が増してくるかは、その対応にかかっている。</p>
8, 10	健康・保健・安全面に配慮した教育・保育環境の充実／園内研修の推進	<p>●①敷地内での人・車の事故防止、②ケガ・病気の予防、発生時の対応、③悪意のある部外者からの防衛、④園バス置き去り防止、などいろいろですが、①と④についてはシステムを工夫することでなくすことができると思います。②と③は場合によっては防ぎようがないこともあります。中でも食べ物や異物による窒息とアレルギーが分かっている児童のエピペンに関しては職員全員が知識を十分にもっておいていただきたいと思います。</p>
	保護者アンケートの結果と考察	<p>●園児数から考えて、ほとんどの項目が及第点だと思います。特に保育者の協力体制や子どもへの対応の満足度が高いのは子どもを預かる施設として素晴らしいことだと思います。</p> <p>自由記述では、園からの情報発信についての意見がいくつか見られます。保護者は我が子に関する情報を欲しがっているのですが、肯定的な意見と併せて考えるとほぼ満足 of いく結果だと思います。</p> <p>縦割り保育についての課題も意見があるようです。新たな取組をよりいいものにしていくためにも長所についての情報発信と活動の工夫が必要なのかと考えます。</p> <p>●求めるものが多様な保護者全ての要望に応えるのは無理だと思いますし、保護者目線での「良い」こども園を目指す必要もないと思います。ただそんな中でも目立つ意見が2つありました。1つは「異年齢保育に伴う年長児の不利益」です。小さな子にあわせた遊びやがまんを強いられる、といったものがありました。私の感覚では、小さい子のお世話をすることも含めて年長の子は楽しみととらえているように見え、一部の保護者には伝わっていないのかなと思いました。2つめは「園での様子が分からない」といったものです。おうちえんや園長につきなど十分な発信はされていると思います。受け取る保護者側が「我が子の様子」だけを見ようとせず「園の様子」として見てくれると良いですね。自分の子のことは、帰宅してからゆっくり本人のことで話を聞いてあげればよいのだと思います。</p> <p>●近くに有りながら、公務に追われ参観等もできなかったことが本当に残念ではありません。幼稚園でも人材不足のなか、多種多様な教育活動を実践されていて本当に素晴らしいと思いました。今年度はぜひ子どもたちの様子を見に行かせていただきたいと思います。</p>

		<p>●保護者アンケートの結果がどの項目も高いのは、素晴らしいことです。特に⑪保育者の笑顔での言葉掛けや態度の項目が満点に近いのは、誇れることです。新しい取組みに全員一致団結して取り組んでいらっしゃることに敬意を表します。次年度の公開保育が大成功を収められますことを祈っております。ご多用な毎日です。先生方どうぞご自愛をなさってくださいませ。</p>
--	--	---

学校関係者評価員の方々

おわりに

みなさまのご協力で「令和5年度自己点検評価学校関係者評価報告書」をまとめることができました。特に4名の学校関係者評価委員の方々には、年度末のお忙しい中で報告書に目を通していただき、第三者の目でコメントをいただくことができました。

時代は繰り返さないこと、未曾有の少子化社会と予測のできない変動の未来社会の到来の中で、子ども達には苦労や工夫を苦痛としてではなく挑戦として充実感をもって人生を切り拓いて欲しいと願っています。そんな人生の根っこを幼児期に育てるお手伝いが少しでもできたらというのが清武みどり幼稚園の幼児教育・保育です。

まだまだ不十分ですが、子どもたちが毎日わくわくドキドキして探究に、挑戦に挑む幼稚園に、そしてそれを応援する保育者、保護者、町の人々の輪を作り上げていきたいと思っています。みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

幼保連携型認定こども園
宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園
園長 宗和 太郎